

核兵器禁止請願継続に 総務文教常任委で可否同数

沼田市議会に利根沼田平和委員会(佐藤卓三会長)から提出されていた(国に対し)『「核兵器の禁止条約の署名・批准」を求める意見書の提出を求める請願』は17日、付託された総務文教常任委員会で審査され、採択(可決)が3委員、不採択(否決)が3委員と分かれ、委員長の裁決により、「継続審査」となりました。

請願内容の要旨は、2017年7月に国連において「核兵器禁止条約」が、6割を超える122ヶ国・地域の賛成で採択されました。しかし、日本政府は、採決に加わらなかったばかりか、条約への署名・批准も行っていない。世界で唯一の被爆国である日本の政府に対し、「禁止条約への署名と批准を行うよう求める意見書を提出していただきたい」というものです。

「継続審査」となりましたので、来年の3月議会で再審査することになります。



国保税収入6,700万円増額補正へ 国保基金からの繰入金は9,000万円を基金に戻す

今年度の国民健康保険特別会計の補正予算では、一般被保険者国民健康保険税の収入が6,767万4千円増えたので増額補正し、12億1,264万1千円になりました。県からの交付金なども増額になり、国保基金から当初予算で繰り入れていた1億6,670万6千円から9,000万円を基金に戻すことになる補正をしました。基金の残高は、3億円を超えました。制度が変わり、今年度の県への納付額は来月に示される予定ですが、来年度の国保会計は、保険税の引き上げはなさそうです。

明智光秀と土岐定政は「いここ」!



大河「麒麟がくる」を活用し観光振興を! 井之川博幸市議

井之川博幸議員は、16日に行われた一般質問で、来年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公、明智光秀と沼田藩土岐家の祖である土岐定政の関係が深く、ネット上などでは、なぞの多い明智光秀の前半生をさぐるなかで、必ず「沼田藩の祖土岐定政」のことが話題になっていることや沼田藩で土岐家は明治まで129年間治政を行い、市は土岐家の資料を700点ほど所有し、街の中に旧土岐邸洋館や、光秀も使った土岐家の「桔梗紋」が刻まれた土蔵があり、桔梗は市の花にも定めていることなどを示し、来年の大河ドラマも沼田市を売り出すチャンスととらえ、大いに観光施策を実施すべきと訴えました。

市長は、今まで「はとこ」と言われていた光秀と定政の関係が、新たな古文書の解読で、「いここ」であると示されていたとの答弁を行い、「沼田歴史資料館の特別展や旧土岐邸洋館などを各種メディアに向け、積極的に発信し、今後の観光客誘致へ繋げてまいりたい」と積極的な姿勢を示しました。

光秀と定政の関係については、昨年、群馬県立歴史博物館で展示された「定政伝記」(定政の孫頼行(出羽上山藩初代藩主)の時代に書かれた)の中に、徳川家康が織田信長を訪問した時に、接待役を任された明智光秀が、徳川の家来であった土岐定政のことを「いここ」であると、語っていたとことが記録されている。

今まで明らかになっている、土岐系図などでは、「はとこ」であることが定説になっていた。(現在、「定政伝記」は、沼田歴史資料館に展示されている)



旧土岐邸洋館、現在上之町に移築工事を行っている。

2019年12月22日 No.953

いのさんニュース

発行所沼田市下久屋町983 ☎23-1519

井之川博幸議員活動地域版部内資料